

スポーツ資料収集家・田尾栄一の資料について

Materials Collected by the Sports Collector Eiichi TAO

及 川 佑 介

Yusuke OIKAWA

1. は じ め に

スポーツに関する資料を豊富に揃えていることで知られる兵庫県芦屋市立図書館を10数年前から資料収集のため訪れてきた。芦屋市立図書館は、一般図書のほかに、「田尾スポーツ文庫」と「松本幸雄バスケットボール文庫」があり、多くの研究者やスポーツ愛好家などが利用してきた。これまで筆者は、主にバスケットボール史研究を行ってきたため、「松本幸雄バスケットボール文庫」の資料を調査してきた。松本幸雄が出身地でもない芦屋市に書籍を寄贈した理由は、昭和30年から芦屋市立図書館に「田尾スポーツ文庫」が存在し、スポーツに特色があるためであった¹⁾。

体育史・スポーツ史での研究史上、スポーツの資料収集家が学術的に評価されたことはほとんどなかった。しかし、体育史・スポーツ史の研究者の中には田尾栄一が収集した資料を用いて研究していることや、彼の資料収集の仕方を学んだ研究者がいることなどは充分評価出来る。従って、このような人物の評価をこれからの体育史・スポーツ史の研究では、考えて行かなければならないと思っている。

本稿では、田尾栄一の資料についてその所蔵先など、一年間で可能な限り、調査したことを記し

ていく。この調査は、まだ初歩的な段階であるが、いくつか明らかになったことがあるので、以下に報告する。

2. 田尾栄一の資料収集

田尾栄一は大阪市で生まれ、同志社大学に進学し、ラグビー競技を経験した。仕事はホテルの経営をしていて、当時の様子を田尾栄一の次女（宮坂忠子）は次のように回顧している。²⁾

いつも「スポーツのこと」のみ考えている人で、ホテルの切り盛りは母・ふじえが一身に担っていました。大阪空襲の折には資料のみを大八車に乗せて避難するような人でした。スポーツ関連の方と父との交流は幅広く、ホテルと言う便利さもあり、常にお仲間が訪ねてくると言う有様でした。生涯かけてひたすら資料収集・研究を続けました（下線は引用者）

この回顧録から田尾栄一は夢中になってスポーツの資料を収集したことがわかる。彼の資料収集は、昭和6年頃からはじまったといわれている³⁾。そして、彼が収集したものは、約15,000点に及び、例えば、神戸新聞では、「明治四十四年にオース

トリアから新潟県の第五十八連隊（高田）に派遣され、日本に初めてスキーを紹介したレルヒ少佐の名刺など貴重品も多い。」⁴⁾と記されていた。この神戸新聞で紹介されたレルヒ少佐の名刺は、元日本大学文理学部教授で体育史・スポーツ史の研究者である木下秀明が田尾栄一に渡したものであった⁵⁾。

木下秀明は昭和30年頃に知人の紹介で田尾栄一と知り合っている。彼は「田尾スポーツ文庫」の他、田尾栄一に日本体育大学の図書資料の整理にかかわった時（昭和33年）やオリンピック・東京大会の時（昭和39年）にもお世話になったという⁶⁾。そして、木下秀明は田尾栄一について次のように記している。⁷⁾

大阪の田尾さんには、1955年頃から毎年のように夏休みに、芦屋図書館田尾文庫を含めてお世話になった。後には、見たい史料をお願いしておくと、何割かは入手して下さった。集める極意も伺った。（下線は引用者）

ここで、記されている田尾栄一による資料を「集める極意」について木下秀明に尋ねたところ、田尾栄一は古本屋の方々に探している資料を伝え、探してきてくれた資料が違っていても、持っている資料と重なっていても、その資料を必ず購入していたという。それが、次へと繋がり、重複した資料は研究者やほしい人に譲り、資料収集の輪を広げて行った⁸⁾。このように、田尾栄一は資料収集を通して研究者らとかかわりを持って行ったこともわかった。

3. 芦屋市立図書館への寄贈

終戦後、田尾栄一は戦災の難を逃れた資料の安全に保管してくれる場所を探していた。彼が芦屋市立図書館に寄贈することを決めたのは、当時の芦屋市長であった猿丸吉左衛門がスポーツに関心と理解があったためといわれている⁹⁾ ¹⁰⁾。猿丸吉

左衛門元芦屋市長は、自身が学生横綱になったという経歴を持っている¹¹⁾。

田尾栄一による図書寄贈の謝礼として芦屋市は報償金50万円を支払っている¹²⁾。この図書の購入は、昭和25年3月8日の芦屋市教育委員会の議題に「体育図書購入について」¹³⁾とあがっている。その記録には、「約四〇〇〇冊の体育図書その他写真オリンピックのプログラム書架の購入を誓約した」¹⁴⁾と記されている。

昭和25年に芦屋市教育委員会に寄贈された図書は、冊数が多かったためか、一般者が閲覧出来るまでに至るのは、約5年後の昭和30年4月17日からである¹⁵⁾。昭和25年に田尾栄一の資料が芦屋市にきてからは、その資料を芦屋市役所は目の前に位置（北側）している芦屋市立精道小学校の講堂地下室倉庫の一部に保管していた。このことについて昭和29年3月12日からはじまった芦屋市役所の定例会議における3月30日の会議の中で、「田尾スポーツ図書の件につきましては今回監査の当時、精道小学校講堂地下室倉庫の一部に未整理のまま死蔵されていました」（下線は引用者）と報告している¹⁶⁾。

約4年間、未整理のまま芦屋市立精道小学校の講堂地下室倉庫に保管されていた資料は、昭和29年に整理しはじめ、同年3月29日には芦屋市教育委員会から芦屋市立図書館に資料の引継ぎをしている¹⁷⁾。

また、昭和29年の「第三回（定例）芦屋市議会会議録（三月三十日）」によれば、田尾栄一が芦屋市に寄贈した図書の冊数は、4,025冊であると述べている¹⁸⁾。この約4,000冊もの数は、昭和25年の「教育委員会記録」（芦屋市）に記されている冊数とほとんど同じであった¹⁹⁾。しかし、昭和30年に一般の閲覧を開始した時には、1,148冊（うち和書812冊、洋書336冊）となっていて約3,000冊の姿は消えている。そして、上記した通り、「教育委員会記録」（芦屋市、昭和25年）によれば、寄贈当初は約4,000冊の図書のほかに、写真やオリンピックのプログラムがあったようだが、それ

らは見当たらない。さらに、「田尾スポーツ文庫」や「松本幸雄バスケットボール文庫」の整理に携わった元芦屋市役所職員の二川幸広は、ポスターもあったことを記憶していた²⁰⁾。

なお、現在、「田尾スポーツ文庫」の図書では1,181冊が保管されている(昭和60年9月まで増)²¹⁾。

4. 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

田尾栄一の資料は、芦屋市立図書館のほかに、秩父宮記念スポーツ博物館・図書館(以下、「秩父宮スポーツ図書館」と省略)と野球体育博物館にも保管されている。田尾栄一の次女(宮坂忠子)は、田尾栄一が逝去した後に、残りの資料は関西大学に寄贈したと野球体育博物館の小川晶子に述べている²²⁾。しかし、このことを関西大学に問い合わせたところ、関西大学では書籍の寄贈があった場合、その寄贈者を書き残すことはしていないのでわからないという回答があった。

秩父宮スポーツ図書館の開設実行委員として田尾栄一はかかわっていた²³⁾。秩父宮スポーツ図書館の開館は昭和34年4月であり、博物館の開館から3カ月遅れてのスタートとなった。これは、秩父宮殿下の7周忌に合わせて博物館の開館を1月にしたことと、図書館の資料整理が間に合わなかったことが関係していた²⁴⁾ ²⁵⁾。

博物館の開館直前に「国立競技場」第2号で次のように記されている。²⁶⁾

博物館は宮様の御遺品を中心にした御遺品室をはじめ、オリンピック選手権などの国際関係行事、明治神宮体育大会、国体の国内スポーツと、その他スポーツ人のコレクションを中心にして蒐集する方針をとり、図書館はスポーツ図書館としての性格をいかにするために、田尾栄一氏の協力を得て同氏所蔵の図書四〇〇余点を収納することになった。(下線は引用者)

このことから田尾栄一は秩父宮スポーツ図書館

の開設に尽力したことがわかるが、彼がその実行委員としてかかわった理由は現在のところわかっていない。

秩父宮スポーツ図書館の「図書原簿(寄贈)」によると、田尾栄一は図書館の開館前の昭和33年12月と昭和34年1月から寄贈していたことがわかる²⁷⁾。そして、田尾栄一が書籍を寄贈した三か所の中で、秩父宮スポーツ図書館だけが、寄贈と寄託したものにわかれている。田尾栄一が秩父宮スポーツ図書館に寄贈・寄託した資料を「図書蔵書(寄贈)」と「図書蔵書(寄託)」で確認したところ、寄贈は167冊、寄託は60冊で計227冊となる。ただし、この227冊という数は、上記した「国立競技場」第2号(昭和34年)で記されている数の約半数なので、正しい冊数なのかは今後の課題としたい。

また、秩父宮スポーツ図書館の調査をした時に、田尾栄一と株式会社宣文堂(以下、「宣文堂」と省略)という書店はかかわりを持っている可能性があることを知った²⁸⁾。そこで、宣文堂のことを現地で調べてみると、兵庫県尼崎市の阪急塚口駅から徒歩数分のところに店は位置していたが、現在は閉じていた。この路面店のほかに、塚口駅前の「さんさんタウン」内の5階にも宣文堂はあったが、平成24年5月に閉店していた。

5. 野球体育博物館

野球体育博物館には、田尾栄一が寄贈した書籍、ポスター、クラブ、パンフレット、優勝額が約40点展示、所蔵されている²⁹⁾。ただし、野球体育博物館の学芸員の関口貴広は田尾栄一の寄贈品について、「田尾贈」という印が押されているものは、田尾栄一から寄贈されたものとわかるが、確認出来ないものがほかにもあるかもしれないと述べていた³⁰⁾。

また、野球体育博物館では田尾栄一の講演に同行したことがある野球体育博物館の司書の小川晶子に当時の話を聴くことが出来た。その講演は、

淡路島で田尾栄一が経営するオリンピック・イン³¹⁾というホテルで昭和56年2月17日に行われた。野球体育博物館に寄贈した『魔球術』と早稲田大学が渡米した時のポスターを講演で使用したので、持ってきてほしいという田尾栄一からの要望があり、小川晶子、館長、総務の3名で資料を持って淡路島に行ったという。講演会は17日の午後2時間くらい行われ、聴衆は高齢の方が多かったことやオリンピック・インでは、金屏風などが飾ってあったことを小川晶子は記憶していた³²⁾。この金屏風は、昭和39年の読売新聞で田尾栄一が紹介しているものであった³³⁾。

このように、田尾栄一は自らが集めた資料を用いて講演を行っていた。彼はスポーツの資料収集だけに留まらず、資料から知識を深めて行ったと考えられる。そうした成果を彼は新聞でも掲載していた。なお、新聞で彼は「オリンピックおじさん」³⁴⁾と紹介されていた。

田尾栄一は日本体育学会体育史専門分科会（以下、「体育史専門分科会」と省略）でも発表を行っている^{35) 36) 37)}。彼の発表は、「スポーツ史資料の収集について」というテーマで行われ、司会はプール学院短期大学の馬場太郎が担当している。この発表は、昭和53年4月22日、23日の体育史専門分科会の春季定例研究会で行われた。体育史専門分科会の「会報（57号）」によると、田尾栄一の発表時間は、4月22日の午後6時から9時まで計三時間と記されている。彼のほかに発表者は、二名いたが、ほかの発表時間は一時間半であった³⁸⁾。この春季定例研究会で世話人を務めたのは、神戸商船大学（現神戸大学）教授の岸井守一であった。岸井守一が田尾栄一と関係していたことから、淡路島のオリンピック・インで、研究会を開き、田尾栄一が発表することになった³⁹⁾。

田尾栄一は昭和62年12月22日の正午に逝去している（享年82）⁴⁰⁾。その二年前の昭和60年まで、彼はスポーツ資料の寄贈を続けていた。

おわりに

田尾栄一の資料は芦屋市立図書館の「田尾スポーツ文庫」のほか、秩父宮スポーツ図書館と野球体育博物館に所蔵されていることがわかった。しかし、彼が生涯で収集した資料は神戸新聞によると約15,000点といわれている中で、確認出来たのは約1,400点に過ぎない。

彼が所持していたと思われる資料、約15,000点から考えると約1,400点という数は少ないように感じるが、これらの資料は、現在も研究者やスポーツ愛好家など、多くの人たちに利用されていることは彼の成果といえる。さらに、田尾栄一は新聞で自らの資料を紹介し、講演・発表を行い、学会でも取り上げられたことは、彼の成果は一定の評価を得ていたといえる。

田尾栄一が所持していた資料は、ほかにも沢山あったと考えられるため、資料の行方を継続して調べて行きたい。そして、図書館等で所蔵されている彼の資料をはじめ、自身で作成した『花絆』（はなのきづな）などを検討して行きたい。

本稿は、平成24年度国士舘大学体育学部附属体育研究所研究助成金を受けて行われたものである。記して感謝の意を表したい。

注及び参考文献

- 1) 道盛正「弔辞」1973.1.14
- 2) 宮坂忠子「スポーツマンホテルのこと」『Newsletter Vol.21/No.1』所収、財団法人野球体育博物館、2011.4.25、p.5
- 3) 「神戸新聞」1987.12.23、p.21
- 4) 同上
- 5) 木下秀明からの聴き取り調査、2012.9.20
- 6) 同上
- 7) 木下秀明「『体育・スポーツ書解題』から30年」『Newsletter Vol.21/No.3』所収、財団法人野球体育博物館、2011.10.25、p.5
- 8) 木下秀明からの聴き取り調査、2012.9.20
- 9) 芦屋市立図書館「田尾スポーツ文庫蔵書目録」1972.7
- 10) 芦屋市立図書館『芦屋市立図書館50周年記念誌』1999.7、p.31

- 11) 二川幸広からの聴き取り調査、2012.8.25
(二川幸広は元兵庫県芦屋市役所の職員で、昭和49年4月に図書館に配属され、「田尾スポーツ文庫」と「松本幸雄バスケットボール文庫」の整理にかかわり、『芦屋市立図書館50周年記念誌』では、両文庫の記事を書いた人物でもある。)
- 12) 芦屋市立図書館『芦屋市立図書館50周年記念誌』1999.7、p.31
- 13) 芦屋市教育委員会「教育委員会記録」1950.3.8
- 14) 同上
- 15) 芦屋市立図書館「田尾スポーツ文庫について」「田尾スポーツ文庫蔵書目録」所収、1972.7.23 (芦屋市立体育館・青少年センター落成の日) (昭和47年7月時点で田尾スポーツ文庫では、和書812冊、洋書336冊、計1,148冊あるうち、和書のみ蔵書目録である。)
- 16) 芦屋市議会「第三回(定例) 芦屋市議会会議録(三月三十日)」1954.3、p.53
- 17) 同上
- 18) 同上
- 19) 田尾栄一の資料を芦屋市が受け入れた時に、資料の数を4,025冊と数えていたが、この数え方は例えば1巻から10巻を合本して1冊にしている場合、1冊と数えているため、実際には4,025冊よりも多かった。このことは、昭和29年3月の第三回(定例)芦屋市議会会議で述べられている。そのほか新聞でも取り上げられたようだが、現在のところ確認出来ていない。(芦屋市議会「第三回(定例) 芦屋市議会会議録(三月三十日)」1954.3、pp.53-56)
- 20) 二川幸広からの聴き取り調査、2012.8.25
- 21) 芦屋市立図書館「田尾スポーツ文庫蔵書目録」1972.7
- 22) 小川晶子からの聴き取り調査、2012.10.12
- 23) 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館「図書原簿(寄贈)」p.62
- 24) 森田重利「秩父宮記念スポーツ博物館の由来」「国立競技場(第2号)」所収、国立競技場、1959.1、p.3
- 25) 国立競技場「国立競技場(第577号)」2010.1
- 26) 森田重利「秩父宮記念スポーツ博物館の由来」「国立競技場(第2号)」所収、国立競技場、1959.1、p.3
- 27) 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館「図書原簿(寄贈)」p.56
- 28) 須藤順子からの聴き取り調査、2012.10.6
- 29) 関口貴広からの聴き取り調査、2012.10.10
- 30) 同上
- 31) 田尾栄一は淡路島で生まれ、昭和35年からオリンピック・インを経営している。('読売新聞(夕刊)」1962.6.23、p.3)
- 32) 小川晶子からの聴き取り調査、2012.10.10
- 33) '読売新聞'1964.1.3、p.25
- 34) '読売新聞(夕刊)」1962.6.23、p.3
- 35) 木下秀明からの聴き取り調査、2012.9.20
- 36) 山本徳郎からの聴き取り調査、2012.10.5
- 37) 日本体育学会体育史専門分科会は、現在の体育史学会である。
- 38) 日本体育学会体育史専門分科会「会報(57号)」1978.4.9
- 39) 山本徳郎からの聴き取り調査、2012.10.5
- 40) '神戸新聞'1987.12.23、p.21

その後の調べで、田尾栄一の資料は「美津濃スポーツライブラリー」にも保管されていることがわかった。(田尾栄一「スポーツの資料収集について」「うつぼだより(No.221)」所収、大阪スポーツマンクラブ、1978.3)